



# にしじ

## 新年のご挨拶 ..... P2~7

山本治企業長	P2
島田安博病院長、森田荘二郎副院長	P3
福井康雄副院長、小野憲昭副院長・地域医療センター長・医療安全管理センター長	P4
林和俊副院長・総合周産期母子医療センター長、西田武司救命救急センター長	P5
細木信吾循環器病センター長、西岡明人がんセンター長	P6
澤田健こころのサポートセンター長	P7
高知医療センター イベント情報	P8

# 1

JANUARY 2019 Vol.159



HAPPY NEW YEAR



新年あけましておめでとうございます。本年も高知医療センターをよろしくお願いたします。(花街道にて 撮影：高知医療センター 労働組合 写真部 西村)

**高知医療センターの理念** — 医療の主人公は患者さん —

# 新年のご挨拶

## 2019

企業長 山本 浩



新年あけまして  
おめでとうございます  
ます。

昨年 12 月 3 日  
に高知医療セン  
ターの企業長に就  
任しました山本で  
す。前職は高知県の  
職員として、主に政策  
企画や人事、健康政策な

どの業務を担当してきました。医療政策に携わった経験はありますが、病院事業については初めての仕事であり、本県の地域医療を支える中核的病院である高知医療センターを開設する高知県・高知市病院企業団の管理者という重責に身の引き締まる思いです。勉強することはばかりですが、全力で取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。

さて、高知医療センターは、「医療の主人公は患者さん」を病院の理念として掲げ、平成 17 年の開設以来職員全員で創意工夫を重ねな

がら取り組んでまいりました。

県全体の高度医療・医療政策の中核として、5 疾病 5 事業ごとの医療連携体制の構築・推進、専門医・若手医師の人材育成、災害時における医療救護活動の拠点機能を担う病院として高知県の計画に位置づけられており、平成 29 年 4 月開設の「がんサポートセンター」を含め「地域医療センター」など 6 つのセンターを中心に高度で専門的な医療を提供しています。

県民の誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らし続けることができるためには、県内のそれぞれの地域で病態に応じた医療にアクセスできる体制が欠かせません。かかりつけ医や県内各地域の中核的な病院と顔の見える関係を築かせていただき、専門治療が必要な場合は紹介をいただき、一定の治療が終わった後は逆紹介を行う病診連携や病病連携をさらに進めていくことが必要です。

今後とも地域医療連携を基本として、自治体病院として使命を果たすために何ができるのか常に考えながら、高知県民・高知市民の皆さまから信頼される医療の提供を行っていきたくと考えています。

皆さまには、引き続き高知医療センターへのご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

## 病院長 島田 安博



新年明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になり、誠にありがとうございました。

2019年亥年も職員一同、高知医療センターの「医療の主人公は患者さん」の理念実現のため一生懸命努力いたしますので何とぞよろしくお願い申し上げます。

昨年4月に成人精神科病棟に高知大学より3名の精神科医を迎え、診療を開始することができました。一昨年11月には「患者支援センター」を開設し、手術患者さんの術前から術後まで包括的に介入することによる早期の社会復帰を目指した試みを始めております。

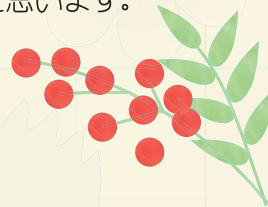
当センターが高知県の高度急性期病院とし

て、高知県民、高知市民の皆さまから引き続き信頼をいただけるよう、これらの新しい体制に加え、多職種参加型のチーム医療をさらに推進して医療の質の向上を目指します。

本年4月には初期研修医を開院依頼初めてのフルマッチ達成の結果、合計18名の新人医師を迎える予定です。希望に燃える若者のエネルギーを15年目の高知医療センターに注入されることにより、現職員も触発され新たな有機反応が起こることを期待しています。

働き方改革、人材確保、経営の健全化など、いくつもの課題がありますが、現場の人間が知恵を出して少しずつ解決策を模索しなければなりません。そのためにも各部署が文字通りの協働作業を進め、高知県民のための高知医療センターを充実させていきたいと思っております。

本年も何とぞよろしくご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。



## 副院長 森田 荘二郎



新年明けましておめでとうございます。昨年4月には病院幹部体制が一新され、病院長、3人の副院長、医療局長が新たに就任しました。島田病院長を中心に、それぞれ責任分野を決め、お互い助け合いながら病院運営に携わ

てきました。新任の皆さんは、かなりのストレスをかかえてやってきたようです。4月の診療報酬改定という荒波も乗り越え、やっと一息ついたところで、年末には山本企業長が就任され、病院機能評価再受審という大イベントもクリアし、ほっと息つく暇もなく新年に突入してしまった感があります。

病院機能評価再受審に際しては、単に審査に合格することを目的とせず、評価項目に沿って病院の実状を見つめ直し、改善しなければならない点は修正し、足りない機能はシステムを構築するという作業を、病院一丸となって行なってきました。これらの行程を通して得られた成果を、今後「医療の質向上」を図っていくツールとして活かしていく

ことが、新年からの重要な課題と位置づけております。

さて、昨今の医療事情は、高知医療センターにとっても厳しくなってきたり、人口減に伴っての患者数の減少、手術数の減少、診療機能を維持していくための継続した医師の確保、特に超過勤務の多い医師の働き方改革などなど、新年早々から重要課題が山積みです。ひとつひとつ解決策を見つけ出すとともに、円滑な引き継ぎができるよう後継者も育てていかなければならないと考えております。

また、本年秋には全県下の医療(医科、歯科)施設、介護施設、調剤薬局、訪問看護ステーション等を双方向で連携するネットワークシステムの構築が始まる予定になっております。平素からお世話になっております方々と、リアルタイムに患者さんの情報を共有することができ、ますます地域医療連携を強化し、ひいては地域包括ケアシステムを作りあげていく助けにもなるであろう本システムに積極的に協力していく所存です。

まだまだこれからも大変な道程ですが、本年も高知医療センターにさらなるご支援を賜りますよう、よろしくお願いたします。



## 副院長 福井 康雄



新年明けましておめでとうございます。

昨年4月より副院長を拝命いたしました。それを契機に、長らく関わっておいりました感染対策の第一線から退くこととなりました。2009年新型インフルエンザ発生時の対応では関係部署・医療機関の方々に大変お世話になりました。

改めて感謝申し上げます。一方、近年も海外から持ち込まれる感染症や国内でのダニ関連感染症などが発生しております。今後も別の立場から感染に関わりサポートを行っていく所存です。

副院長としては西岡前副院長の業務を引き継ぎ、ベッドコントロール・医療機器整備・診療材料購入などを中心に従事しております。

ベッドコントロールに関しては、患者さんが迅速に退院もしくは転院できるように調整しております。より重症・複雑な患者さんを受け入れて、短期間で良くなっていただくことが当院の役割と認識してありま

す。とりわけ救急車・ドクターヘリ経由で入院となった患者さんが適切な病棟・診療科で治療を受けられる事が大切です。一方、転院調整においては地域の先生方のご協力を仰ぐ場面もございます。その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。

医療機器については次年度以降も高額医療機器更新や新規器械導入が控えています。高知県の人口が減少し医療需要減少が予想される中、どのような分野に経営資源を注力していくか、公平かつ迅速に検討しております。

診療材料関連では現場から様々な意見・要望がある中、コストを意識した物品選定を行っております。小さなことの積み重ねで、診療材料比率は対前年で低下することができました。これからも患者さんの不利益にならないことと経営改善とのバランスをとりながら業務を継続してまいります。

医療を取り囲む環境は変化し続けています。その中で取り残されることなく、むしろ積極的に夢のある新事業にも関わっていきたくと考えております。

この一年が皆さま方にとって素晴らしい年でありますよう祈念いたしますとともに、本年もさらなるご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 副院長・地域医療センター長 小野 憲昭 医療安全管理センター長



新年あけましておめでとうございます。皆さま、すこやかに新春をお迎えのことと存じます。旧年中は、高知医療センターとの医療連携にご協力ご支援を賜り、誠にありがとうございました。

私にとりまして昨年4月に副院長を拝命して以降の9ヶ月間は、院内での立場

が変わり、見るもの聞くものの多くが新しいことであり、かなり大変でしたが、たくさんの勉強をさせていただいたと思っております。その中でも12月に受審しました病院機能評価への対応準備の中、病院内の設備、機能について知らない事の多さを実感し、これを知る、学ぶ、そして改善する、整理するなどの作業に明け暮れました。もの凄いスピードで進む時代の中、職員皆の力で遅れていた多くの事柄を少しずつ整理・改善できているのではないかと感じています。

地域医療センターでは、地域の医療・介護・福祉機関の皆さまと、「顔の見える」だけでなく一歩進ん

だ「深く信頼しあえる」関係を保ち、地域医療構想の一翼を担い、分化した病院機能をそれぞれ發揮して互いにwin-winの関係となれますよう、更なる連携に努めてまいりたいと考えます。どうぞよろしくお願いいたします。

また医療安全管理も担当させていただいております。患者さんの多くが高齢化する中、進歩し高度化した診療・治療を行うにあたって、患者さんお一人おひとりに安心いただける、安全な医療を提供していきますよう、そのためには多くの職種の職員全員が十分にコミュニケーションの取れたチームでありますよう、皆で努力してまいります。

副院長拝命時に申しました「熟慮、祈念、放下、断行」の実行は、そうそう易々とできるものではないと思いますが、これからも高知県の中核的な公立病院、高度急性期病院、地域医療支援病院として、当院の医療が患者さんに安全、安心と感じていただけますように、また地域医療機関の皆さま方には、厚い信頼をいただけますように、皆で努力いたしますので、本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 副院長・総合周産期母子医療センター長 林 和俊



新年明けましておめでとうございます。旧年中は大変お世話になりました。本年は「いのしし年」、十干十二支では「己亥(つちのとい)年」といいます。十二支では12年ひと回りですが、十干との組み合わせで60年に一度、同じ干支(えと)になるそうです。60年前の1959年は当時の皇太子様と美智子様のご成婚の年であり、本年、その天皇が退位され、新天皇、新年号になるといふ、不思議な巡り合わせを感じずにはいられません。

さて、己亥年とは「現状を維持し、守りの姿勢に徹した方が良い」と言われる年だそうです。まず昨年の現状を評価しますと、専門の産科領域で妊産婦救急研修のインストラクター資格(ALSO, JCIMELS)を取得し、本県では2回目となるALSO研修会開催(「生命(いのち)の基金」助成事業)が実現しました。また、県から委託を受け2年目となる病院前妊産婦救護(BLSO)研修を開催し、県内の救急救命士がよ

り不安無く妊婦救護にあたることのできるよう取り組んでいます。更に県外から婦人科手術(がん分野や腹腔鏡手術分野)のスペシャリストを招聘し、私共々、後進の医師にご指導いただきレベルアップを図っています。

副院長としての初年度は倫理的諸問題に関する指針整備と倫理コンサルテーションの活動、院内学術集会開催や当院学術雑誌出版の再検討を進めてきました。そして、全職員対象の「推奨研修」として患者安全を高めるためのチームSTEPS研修会を初開催しました。1回開催で約50名が受講ですが、その後は手を上げていただいた部署に私が出向いて、チームSTEPS「入門編」をお話する伝道師のような取り組みを開始し、いつか院内全職員に周知したいと目論んでいます。

さて、本年度の私は周産期医療における臨床業務の主体を後輩医師に移行しつつ、周産期関連事業を継続、当院および本県の産婦人科医の育成にも関わる所存です。一方で副院長としては、公正な病院運営、健全な病院経営を基本に、職員全員が当院に誇りを持ち、働く喜びを見いだせるような取り組みを進めていきたいと思っております。本年も職員の皆さまの積極的なご協力を心からお願い申し上げます。

## 救命救急センター長 西田 武司



新年あけましておめでとうございます。

救命救急センター長を拝命して3年目となりました。高知医療センターの救命救急センターは高知県の急性期重症救急症例の要の医療機関のひとつとして、高知医療センターのすべての診療科と協力し、急性期疾患・重症外傷の対応を担ってきました。

また高知県のドクターヘリ事業の基地病院として高知県ドクターヘリ「勇気の花」号を預かり、高知県内の山間地域や遠隔地域の救急重症症例に、高知赤十字病院、近森病院、高知大学病院などに勤務されている救急担当の先生方とともに担ってきました。また、高知県消防防災航空センターに所属する消防防災ヘリコプター(りょうま:シコルスキー S76B型、おとめ:アグスタ式AW-139)とも以前から救助症例の対応や傷病者搬送などで協力体制を維持してきまし

た。高知市近郊では、RAPID CAR(欧州型ドクターカー:ラピッドカー)を用いて、消防機関からの要請に基づき、現場からの医療活動を救急隊と協力して行っています。

さらに、高知医療センターは高知県の基幹災害拠点病院としての機能も担っており、県内各地で行われている災害訓練などにも積極的に参加し、災害時の備えにも日々精進しています。昨年は降雨災害なども起こっており、災害に対する備えがさらに重要と考えられています。

新しい年を迎え、新たな気持ちで救急医療・災害時対応への日々の備えを行っていきます。

本年も高知県の急性期・地域医療へ貢献すべく他の診療科の先生方と共に精進してまいります。

皆さま方のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

## 循環器病センター長 細木 信吾



新年、明けましておめでとうございます。

皆さまには、いつも循環器病センターとの病診・病病連携を賜りまして深く感謝申し上げます。

循環器病センターでは、『紹介患者さんを断らない』をモットーに、患者さんのために、循環器内科と心臓血管外科が互いに協力しあって循環器疾患に対する治療と看護、運動療法、食事療法、薬物療法を含めた心臓リハビリテーションに取り組んでいます。

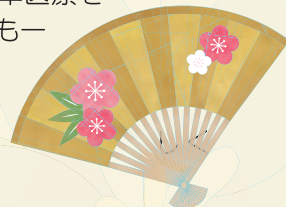
循環器疾患に対する治療は、体の負担の少ない（低侵襲）治療がどんどん発達してきています。当センターにおいても、従来からの冠動脈や末梢動脈バイパス手術、大動脈人工血管置換術、各種弁膜症手術に加え、低侵襲治療として、経皮的冠動脈インターベンション、末梢動脈疾患に対する経皮的血管形成術、不整脈に対するカテーテルアブレーション、

徐脈や頻脈性不整脈に対する恒久的ペースメーカやICD移植術、心不全に対する心臓再同期療法、経カテーテル的大動脈弁移植術（TAVI）、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術が導入されました。

さらに、今年は、高知県初となる僧帽弁逆流症に対するカテーテルによる僧帽弁形成術（Mitra Clip）の導入や、カテーテル（レーザー等）を用いたペースメーカ・ICDリード抜去術の導入を進めていく予定です。高齢化が進む高知県において、より幅の広い治療の選択肢をもって患者さんにとっての最適な医療を提供してまいります。

高知県の循環器疾患患者さんのため、患者さんのゲートキーパーであるかかりつけ医の先生方と共に、地域で完結することができる地域チーム医療を目指しつつ、一般的な疾患から高度医療を要するような難治性疾患まで、世界標準医療を高知県で受けられるよう今年も一層の努力をする所存です。

本年も高知医療センター循環器病センターをどうぞよろしくお願い申し上げます。



## がんセンター長 西岡 明人



新年明けましておめでとうございます。旧年中は高知医療センターがんセンターに対しまして格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。2015年4月からがんセンター長を拝命して4年弱、この間大過なく職務を全うすることができましたのも関係各方面の方々のご協力とご支援の賜と感謝しております。

高知医療センターは、2006年6月に制定されました「がん対策基本法」に則った体制の構築に努め、2008年2月に高知県で初めての「地域がん診療連携拠点病院」の認定を受けました。がんセンターでは地域がん診療連携拠点病院として、また、高知県におけるがん治療の最後の砦としての使命を全うするべく診療体制の整備・充実、診療実績の向上に努めております。

2017年4月に開院しました「がんサポートセンター」は、おかげさまで概ね順調に稼働しております。

1階の放射線治療部門では、世界でもトップレベルの性能を有する2台の高精度放射線治療装置を用いて、定位放射線治療（SRT）や強度変調放射線治療（IMRT）、画像誘導放射線治療（IGRT）といった最新の放射線治療にも対応しています。3階の外来がん化学療法部門では、明るくてゆったりとした環境で、患者さんに少しでも気持ちよく化学療法を受けていただけるよう努めています。4階の「がん相談支援センター」および「緩和ケアセンター」では、人員の整備も図り、今後一層重要性が増すと思われるがんの緩和医療やがん患者支援に力を入れています。2階の核医学検査部門では、高知県で2施設目となるPET-CTが稼働していますが、こちらにはまだ少し余裕がありますので、今後の課題として検診施設との連携も検討しています。

高知医療センターがんセンターでは、このようながんサポートセンターでの充実したがん診療を中心として、さらにより良いがん治療を提供できるように頑張っていく所存でありますので、県民の皆さま方、医療機関の皆さま方をはじめとする関係各方面の皆さま方には本年も変わらぬご支援を高知医療センターとがんセンターに賜りますようお願い申し上げます。





新年、明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、よき新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は、こころのサポートセンターに対して、多大なご協力とご支援をしていただき感謝を申し上げます。

昨年4月、私はこころのサポートセンター長を拝命し、高知県精神科医療の長年の懸案であった、当センターの成人の精神科病床を再開する事ができました。成人の精神科病棟は、徐々に入院患者を増やしている途上です。若年から老年期の患者層があり、かつ一つの病院では完結できないほど、幅広い疾患を治療する必要があります。このため専門性のある精神科病院や施設との共同作業を行なっています。今後の課題として、治療困難例な方に対して、特殊な薬物療法であるクロザピンを導入することや、電気けいれん療法を可能にする事が求められ

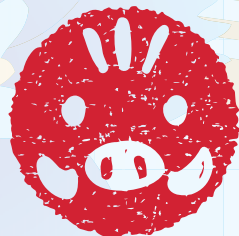
ています。

児童精神科は、継続的に入院している患児がいるとともに、外来数が増加しております。適切な治療開始のために、初診の時間を確保する事が必要となっております。このため、初診するまでに待ち時間が長くなっています。また再診も、外来数が増え、学校や施設とのカンファレンスなどにかかりきりとなり、二人の児童精神科医には余裕がなくなっている状態となっております。将来的には、児童精神科医が少なくても地域で児童精神科医療が完結できるように、小児科、精神科クリニック、精神科病院の先生方と連動しながら、地域医療における児童精神科医療を確立する方法を考えていきたいと思っております。

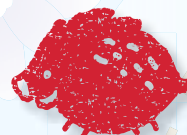
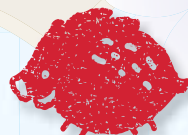
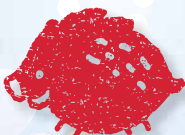
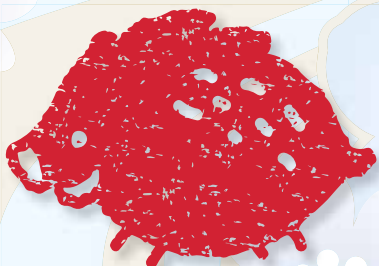
高知医療センターの救急医療、がん医療、循環器医療、周産期医療、地域医療とコミュニケーションをとり、様々な精神科医療ニーズに応え、充実した精神科医療を築いていく所存であります。さらに研修医、看護師、その他の専門職教育を受け入れる事で、高知県の医療に貢献をしていきたいと考えています。本年もこころのサポートセンターに対して、温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。



2019年



本年も高知医療センターを  
よろしくお願ひ申し上げます



月	日	曜	高知医療センター イベント情報			
1月	14	月・祝	<b>第53回 地域医療連携研修会</b> (参加費無料・申込不要)			
			内容	講演：在宅医療と看取り パネリスト：安らかで穏やかな死を迎えるために	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール
			時間	13:30～15:10	対象	医療関係者・一般
			講師	講演・パネリスト：あおぞら診療所 高知潮江 所長 松本 務 氏 パネリスト：高知県立大学 学長特別補佐・看護学部教授 森下 安子 氏 高知医療センター 救命救急センター長 西田 武司		
	お問合せ：高知医療センター 地域医療連携室 TEL:088(837)3000(代)					
	17	木	<b>高知医療センター看護局集合研修 他施設公開研修</b> (参加費無料・申込要) ※申込期限:1月7日(月)			
			内容	成人BLS/AED研修	場所	高知医療センター 2階 スキルズラボ室
			時間	9:00～12:00	対象	看護師(3名)
	講師 高知医療センター BLSインストラクター					
	申込用紙は当院ホームページ 看護師他施設公開研修よりダウンロードできます。必要事項をご記入の上 FAXにてお申し込みください。申込代表者は看護部門の担当者様でお願いいたします FAX:088(837)6766 お問合せ：高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・藤本・川田) TEL:088(837)3000(代)					
	18	金	<b>第13回 高知集中治療専門医養成セミナー</b> (参加費無料・申込不要)			
			内容	早期リハビリテーション エビデンスから加算対策まで	場所	高知医療センター 1階 研修室
			時間	17:30～18:30	対象	医療関係者
			講師	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 麻酔・蘇生学分野 教授 森松 博史 氏		
	お問合せ：高知医療センター 集中治療科 難波 TEL:088(837)3000(代)					
19	土	<b>平成30年度 第3回 救命救急センターセミナー</b> (参加費無料・申込不要)				
		内容	ERでの病歴・フィジカルアセスメント 臨床推論	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	15:00～18:00	対象	医療関係者	
		講師	群星沖縄臨床研修センター長 徳田 安春 氏			
お問合せ：高知医療センター 事務局 経営企画課 江口 TEL:088(837)3000(代)						
20	日	<b>高新・高知医療センターがんセミナー2018</b> (参加費要・申込要)				
		内容	抗がん剤の副作用の特徴とその対策	場所	高新文化教室(高知放送南館3階37号室)高知市本町3-3-39	
		時間	10:30～12:00	対象	一般(40名)※先着順	
講師 高知医療センター 薬剤局 田中 広大 お問合せ・お申込み：高新文化教室 TEL:088(825)4322 受講料 1,500円/1回						
20	日	<b>高知医療センター 看護実践発表会 ひとり人が輝くためのキャリア開発～人生100年時代の看護師として～</b> (参加費無料)※当日参加可				
		内容	基調講演 看護実践発表	場所	高知医療センター 2階 くろしおホール	
		時間	13:00～16:30	対象	看護職	
講師 基調講演：NPO法人看護職キャリアサポート フリージア・ナースの会会長 大島 敏子 氏 参加ご希望の方はお問い合わせください お問合せ：高知医療センター 看護局 教育担当(有澤・藤本・川田) TEL:088(837)3000(代)						
27	日	<b>平成30年度 第1回 学術講演会(高知医療センター歯科口腔外科と高知市歯科医師会との合同研修会)</b> (参加費無料・申込不要)				
		内容	歯科訪問診療・外来診療を通じた多職種連携	場所	高知県歯科医師会館 会議室1・2 高知市丸の内1丁目7番45号 総合あんしんセンター2階	
		時間	9:30～12:00	対象	医療関係者	
講師 医療法人仁慈会 太田歯科医院(鹿児島市) 医院長 太田 博見 氏 お問合せ：高知医療センター 歯科口腔外科 立本 TEL:088(837)3000(代)						

※時間等、変更になる場合もございますのでご了承ください。みなさまのご参加を心よりお待ちしております。

## 編集後記

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

雪国生まれ、雪国育ちの私ですが、高知に住み始めて十数年になります。高知の冬は晴天の日も多く過ごしやすいついと思いつつも、年末年始になると雪景色が恋しくなります。子どもの頃はスキーやソリ遊び、雪合戦など一日中雪まみれになって遊んでいました。しばらく冬に地元へ帰ることができませんでしたが、昨年2月、久しぶりに地元でスキーを楽しみました。意外と身体が覚えてくれていてほっとしました。

今年は5月から年号が変わり「新年」が2回来る希有な年です。初心に立ち返りつつも新しいことに積極的にチャレンジしたいと思います。

本年もよろしくお祈りいたします。(地域医療連携室 関)



平成31年1月1日発行  
にじ1月号(第159号)  
毎月発行  
編集者：広報委員会  
発行者：島田 安博  
印刷：株式会社 高陽堂印刷

発行元：  
高知県・高知市病院企業団立  
**高知医療センター**  
〒781-8555 高知県高知市池2125-1  
TEL:088(837)3000(代)

広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見をお寄せください。renkei@khsc.or.jp